

キタ
再発見の会
×
うめらく未来
ミッション



公益財団法人都市活力研究所と一般社団法人うめらくは、共同でトークイベント「キタ再発見の会」「うめらく未来ミッション」を開催します。「キタ再発見の会」は、キタエリアで多くの時間を過ごされる方に、是非キタエリアの豊富な魅力を知っていただき、もっと好きになっていただくきっかけとして開催しています。「うめらく未来ミッション」は「地域活動家」×「地域活性仲間」＝地域文化交流の場として定期開催しています。うめらくにゆかりのある周辺で開催し、未来にミッション(使命)を感じて活動する方々の実践のきっかけの場となっています。皆様に気軽に立ち寄っていただき、夜のひとときにゲストトークや意見交換を愉しんでいただければ幸いです。皆様のご参加をお待ちしております。

第8回キタ再発見の会×うめらく未来ミッション(vol.16)

ロテーマ 『変わりゆく中津と変わらない中津の魅力
&人と人とをケンチクを通してつなげる試み』
ロ講師 SPACESPACE 一級建築士事務所 岸上 純子 様
ロゲストスピーカー：花咲 典之 様 (中津地域より)
ロ日時 2018年9月14日(金) 19:00-21:00
ロ会場 都市活力研究所セミナールーム

前半では、中津地域で地域の活動をされているお二人をゲストスピーカーとして「変わりゆく中津と変わらない中津の魅力」についてトークセッションをおこないます。

後半では、そんな中津に魅了され、古い空き家を自らリノベーションしたり、うめらくの企画担当として活動したり、学生と共に地域に関わる中で、徐々に地域のことを知り、地域の人間になろうとし奮闘する今をお話したいと思います。

■第1部 変わりゆく中津と変わらない中津の魅力

(岸上)うめらくの企画も担当させていただいています岸上と申します。今日は中津をテーマにお話をしていきたいと思っています。私も中津3丁目、商店街在住ですが、去年の10月から住んでいる新参者なので分からないこともたくさんありますので、今日は花咲会長に来ていただいているんなお話を伺いながら進めたいと思います。よろしくお願いします。

中津は北区19地域ある中で、他の地域に比べてかなりいびつな形をしているのがわかります。そして中津地域は1丁目から7丁目までありますが、雰囲気が違う1丁目、2~4丁目、5~7丁目という3つの場所が、高架やインフラによって隔てられているような地域です。その地域の特色を会長にお伺いできればと思います。

(花咲)今お話があったように中津地域は3つに分かれていて、城北公園通りから西の方、JRのガードまでが1丁目、商売の方とか飲み屋さんとか、パチンコ屋さん、警察、税務署というのがあります。JRのガードを越えて西の方に入るところは住宅地で、小学校や公園もあります。我々が中津村と呼んでいる、昔を思い出すような住宅がこの3丁目に密集しています。4丁目の方は道路が広くて会社が少しあって、やはり住宅地になっています。今度は阪急電車によって区切られている大淀寄りのほうはマンションと会社が多いんです。このように、会社・マンション群と住宅地と商業地域という3つの地域が中津地域にあります。

(岸上)かなり特色の違う3つの地域がインフラによって隔てられているんですけど、そのインフラに今後大きな変化が起こってきます。そのうちの1つがJRの高架で、工事が始まりだしていますが地下化されます。高架がなくなってかなり行き来がしやすくなる部分と、逆に交通が不便になる部分があります。もう1つ、淀川左岸線の工事というのでも計画されています。道路や緑地ができて上のところに遊歩道ができる計画になっています。いちばん大きなところではうめらく2期の工事が行われます。

(花咲)一番今地域からの声があるのはJRのガードが地下化になるということで、支援学校と大阪整肢学院の前にガードがあって1丁目から2丁目の方へ抜けられるんですけど、そこで1日4千人ぐらいの通行人があります。それで、車椅子の方とか身障者の方に優しいようにという要望を出しています。淀川左岸線の方も、一応全部通りますということで先日説明会があったんですけど、それも中津の方はほとんど変わりありません。

(岸上)今回こういう会を行うにあたり、中津にお住まいの方とか皆さんに、こういう変わりゆく中津に対してどう思われているのかというのを、質問してみました。まず、質問①「変わったなあと思うことは何ですか」ということでいろいろ聞かせていただきました。「活気がなくなった」「高齢化した」「オシャレなお店とか人が増えた」「スーパーができた」「安心・安全なまちになった」「最近ファミリータイプのマンションが増えて子育て世代が増えた」「ガラス工場がマンションに」「建物が大きく

なった」「銭湯がなくなった」「民泊ができた」「外国人が増えた」「カレー激戦区になった」「地活ができた」「リバーのなかの行事がなくなった」「高架の下が暗くなった」というご意見をいただきました。ガラス工場がマンションになったというのはどのあたりでしょうか。

(花咲)中津の3丁目と4丁目の間なんですけど、塩谷硝子という結構大きいガラス工場があったんです。その前にも共立ガラスというのがあったんですけども、そこもマンションになりました。ただ、はしご車がガードを通れないので消防法によって、中の方に高いマンションが建てられないんです。でも今度JRが地下化になって平面になると今度は高いマンションが建てられるようになる。それもちょっと心配しているんです。

(岸上)工場があったところがファミリーマンションになって若い世代も増えたというプラスの面もありつつ、コミュニティの話でいうと離れていくということがあるのかもしれない。マンション内の行事が最近なくなったという話をお聞きしましてそのへんの話をお聞かせください。

(小山)築48年のマンションなので高齢化しているの自分たちの安心なすまいを維持していくためにコミュニティを活性化しようといういろんな行事をやっていたんですけども、若い人が増えてきてマンション内のことに関心を持つ人が減ってきているようです。

(岸上)高架下が暗くなったというのは山田さんのご意見ですが。

(山田)高架下が暗くなったというのは阪急側の高架下のほうなんですけれども、ピエロハーバーがなくなって暗くなった。でも今お手元にチラシがありますがスモークスパークが今日も開催されています。明るいフードマーケットみたいなものができていましたし、これから変わってくるのかなという期待は持っています。

(岸上)質問②「変わらないと思うことは何ですか」という話を聞くと、「長屋の風景」「淀川の風景」「中津村」「静かなまち」「個性的な人が多い」「個性的なお店も多い」「梅田に行けばなんでもあるけど、中津には何も無い」「旧住民がブレない」「程よい距離に都会があるからお年寄りがやたら元気だ」「生活感が感じられる」「人情、人のつながり」というご意見が出てきました。

続いて質問③にいきます。「じゃあ変わってほしいなって思うことは何ですか」ということで聞いたんですけど、「若い人がもっと地域にかかわってほしい」「お店とかおもしろいことをやっている人とカグループがつながってほしい」「もっと面白いモノやコトが生まれてほしい」「3丁目の長屋の街並みは残したい」「空き家の改善とか利用」「商店街の復興」「買い物できる場所の充実」などいろいろなご意見が出ました。お店やおもしろい活動をしている人がつながったらいいなあというご意見がソフトの面で大事ななあと思っています。

(村田)若い人も住まれているけれども姿が見えないというふうに感じています。もっとみんなが中津という地域に興味を持ってほしい。お店とかおもしろい活動をしている人は個々にはたくさんいるのでそれをつなげる。面白い人は多いがたぶん埋もれているので、私たちが音楽の活動を通じて少しずつ仲間を増やしたい。

(岸上)中津リバリュープロジェクトというのが始まったり、うめらくもそうですけど、いろんな活動が起こりつつあるんですけど、そういうのがもっともっと広がっていくともっと変わっていくんだろうなと思います。質問④「逆に変わってほしくないなと思う」ことを聞いていくと、静かなところだったり、人のつながりだったりいろんな意見がでてきたんです。

変わってほしくないというのと変わってほしいというご意見から見えてくる、これから中津に大切なことってもしかして…。人に焦点を当ててまとめていくと、地活の活動ってすごく大事だなと思います。では地活ってどんなことをしているんだろうというのをいろいろ勉強させてもらったんです。中津地域の年間活動内容を書き出してみました。ほぼ毎週の行事が4つ、毎月の行事が1つ、単発の行事が13以上、合計したら年間200以上やっています。地活のメンバーの方々はある

程度限られていて大変だと思うんですけどどうやって運営してきているんですか。

(花咲) 運営の方法はみんながめいめいでやっています。月に1回ぐらい大きなのがありますけれどもそれ以外は女性会や、地活のコアなメンバー、社協のメンバー、青少年指導員のメンバーが全部やってくれているので、そんなにやっているように思わないです。まず第一にほくが遊ぶのが好きなんです。こんなんしたいなと思っただけ、女性に相談します。この3年間ぐらいは毎年新年互例会のときにまず発表します。これをやりたい！というふうにみんなの前で言うんです。それがなぜかわからないけれども実行してしまう。「おっさんカフェ」にしても「中津文化祭」にしてもそうです。そしていろんな方がこんなことをしたいんです。がという話を持ってきてくれるんですよ。例えばおっさんカフェというのは毎週土曜日やっています。そこにいろんな方々、尺八の先生や三味線の方、フラダンスの方、和太鼓のクラブの方とかそういういろんな人が来てくれます。そば打ちは僕が好きですから僕がやろうということで年間何回かやっています。社協の事業としてお年寄り方に楽しんでもらったり、手作りのものを食べてもらったりしてほしいということで考えたんです。会館に道具も全部揃えています。そんなことでいろんな技術をもっている人にきてもらっていろんなことをしてもらおうということでやっているから広がっているんだと思います。

(岸上) なんとなく私も感じているのはいい関係ができていっているんだろうなというふうに思うんです。会長はすごくなんでも受け入れてくださって、その周りの方々がベースをちゃんと運営されていて押えるところを押えておられるという関係がうまくできているというのが中津の特徴なのかなというふうに思いました。

■第2部 人と人をケンチュクを通してつなげる試み

(岸上) 去年の10月から事務所を構えて人と人を建築を通してつなげるいろいろな試みをしているんですけどもそういうお話をさせていただけたらなと思っています。大学院を卒業して坂倉建築研究所という設計事務所に4年間勤めていました。それと同時に SPACESPACE という今やっている事務所を作って設計活動を並行してやっています。2009年に大阪市立大学と大阪工業技術専門学校というところで非常勤講師をやりはじめました。2010年に結婚と同時に会社のほうを辞めて、学生に教えることと、設計事務所ということをして仕事をしています。

前に勤めていたときに、西宮市の小学校の敷地内に新校舎を建てるという仕事をしました。でも25年後ぐらいにまた子供が減って教室が要らなくなって、それが地域のために使われるような場所になるということなので、先生とかまちの人とかを巻き込んでワークショップをしました。そこで2つぐらい地域に開かれる教室というのがあったのでどう使っていきたいかということやどんな設えにしたらいいか一緒に考えました。

この仕事が結構ポイントになったんですけど、橿原市の八木というところで伝建地区の近くのところまで長屋の残った場所がありました。この近くにある奈良県立医科大学の学生から、長屋を借りたのでカレー屋をつくりたいので設計してくださいというメールが来たんです。お医者さんになったら人と接するのに大学の勉強では人と接することをしないから、ほくたちはその危機感を覚えてまちのなかでお店をやることで人と接するということをやりたいというんです。そこで、カレー屋だけではなく、寺子屋も併設し、空いている時間は貸し出すことにしたらということ提案しました。医学部の学生たちは意外に不器用ですが自分らで作りたいというのでうちの大工技能学科の学生と一っしょに工事をしたので交流することができました。また地域にできる場所なので地域の小学校に声をかけて親御さんや子供たちを集めて左官を一部してもらいましたので、この場所に愛着を持ったり、医学部生とこどもたちをつないだりすることができました。建築としては中が見えるようにガラスをいれたり、吹き抜けを作ってカレーが食べられる1階スペースから2階の寺子屋が見えるようにしたりしました。結構活用されるいい場所ができたんです。でもキーマンがいなくなるとその場所の魅力がなくなるので、その場所に居続けるキーマンの大切さに気がきました。そこでいつかは自分がキーマンになりたいと思ったんです。

一方学校の教員としてまちの課題を通して学生と社会と地域をつなげたいなと思っていました。最初のころは福島区とかでまちを調査してそのまちにいいなと思えるものを提案するという学生の課題をやっていたんですが、ほんとに地域で活動しているひとたちが見えてこなかった

んです。何かのきっかけで北区まちづくり塾というのがあって、地活の会長さんの話が聞けますよみたいなことがあったのでこれはぜひ参加しようと思いました。そこで花咲会長がすごくオープンでなんでも受け入れていただける方だということが分かったので、なんとなくいままで思っていたことが実現できるかもかもしれないと思ったんです。それはどっぴりどこかのまちの人間になって、逃げ場なくして町の活動をしたいという思いです。先ほど申しましたようにキーマンになりたいなという気持ちがあって、中津だったらできるかもしれないということで一念発起物件を購入しました。

しかもただ引っ越すのではなく自分がそこでずっと工事をするので徐々に地域になじんでいきたいなと思ったんです。そしてやっているうちになんかおせっかいを焼いてもらいたいなというのがあって、仮囲いに写真をギャラリーみたいに飾ったりとか、ノソキアナをつくって覗いてみてとか、見学会みたいな機会も作りました。それで引っ越してくるころにはすっかり中津の人間のひとりになれたような気がしていました。一方で学生にもリアルな地域を感じてもらうために、課題を始める前に花咲会長はじめ地域の方々や座談会みたいな感じで中津のまちづくりの現状みたいなことを学生から質問して答えていただきました。そしてこの夏、学生が去年区長賞をいただいた提案がきっかけでうめらくとか地活とかそのほかいろんな方のご協力で「ぼんぼり祭り」というお祭りが実現しました。

そもそもケンチュクの職能とはなんだろう。まず建築的な視点で魅力的な場所や空間を見出すこと、場にかかわる人たちのニーズを引き出すということ、条件とかを整理して編集すること、人々の活動の助けとなるような空間をつくるってということなどが大事じゃないかと思うんです。

建築とは設えをつくることだと私は思っています。設えとは家具なんですね。家具って建築よりも人間的に関与して建築と人間の活動の接点に位置しているものです。ですから家具みたいなすごい小さいものからでも、人の活動の助けとなるようなものをつくっていけるのが建築の職能として大事なんじゃないかなと思っています。その中で私が興味があるのはガジェットとしての建築です。ガジェットという言葉は昔から一般的に道具とか装置、仕掛けのことなんですけど、その機能だけで決められるのではなくてもうちょっと道具的なもの、装置とか仕掛けみたいなものが建築にあるといいなあと思っています。そういうちょっとした仕掛けみたいなことで人の動きや活動がもっと楽しくなるようなことが提案していけたりとか、一緒に考えていけたりするようなことができたらいいなと思っています。

(三本松) 岸上様、ありがとうございました。第一部では花咲会長から非常に多岐にわたる活動をされるのが、実は自分が好きなことをやっているというお話もありましたし、でもいろんなことをやりたいというツールを持っておられる方に出てきていただくということもありますし、女性を味方につけるといってもポイントかなと思っています。また岸上様のお話でノソキアナなんですけど、私ものぞかせていただいたひとりでございます。逃げ場をなくして地域にかかわろうというお話がありましたが、こんな肝の据わった話を久しぶりに聞かせていただきました。ありがとうございました。

